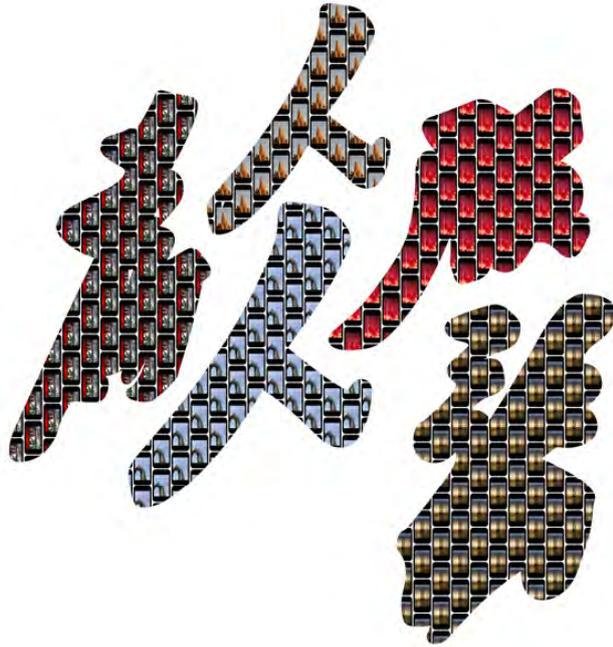




ARTCOURT Gallery
Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

アラン・チャン：iEye-ai
Alan Chan / iEye-ai



アラン・チャンは70年代よりデザインの領域で幅広く活動を続け、世界を舞台に活躍するデザイナーです。本展では、iPhoneで撮影したイメージを使ったアート・ワークのシリーズ《iEye-ai》を、日本で初めてご紹介します。

アラン・チャンは、「北京、上海、東京、ミラノなどの都市を訪れた際に目に留まった美しい構図や風景をiPhoneで撮影し、後に写真をグラフィックで反復させ図形を構成していくうちに、新たな発見があった」と話します。制作過程で彼は、iPhoneのカメラ機能で切り取られた都市風景や自然の中に、スナップショットの段階では見えなかった視覚的構造や文脈、さらには新しい視覚効果を見出し出していきます。iPhoneにEye(目)とai(愛)を組合せ、《iEye-ai》と名付けたこのシリーズは、北京のNew Age Gallery や、ミラノのファッションブランドAnteprimaのショールームなどで展示され、アーティストとしてのアラン・チャンを印象付けました。

私たちのコミュニケーションの手段に変化をもたらしたiPhoneについて、彼は「現代の生活と文化において、iPhoneのフレームはコココーラの瓶と同じくらいアイコン的な存在だと思う。iPhoneのフレームごとヴィジュアルとして使ったこの作品は、自分が撮影した写真を見る瞬間のシチュエーションを再現し、また iPhoneへのオマージュでもある」と語っています。

美術評論家のYao Xiaoyanは《iEye-ai》について「写真、携帯電話、幾何学の図形.. そのどれでもなく、それら全てでもある」と指摘します。窓越しに見る儂い光の戯れや、都市の歴史を伝える建造物や落書きなどのイメージが、日記のように連なっています。写真、デザイン、ドキュメンタリー、物語... 本展は、これらの境界を越え、《iEye-ai》の万華鏡のような二次元のイメージが、グラフィカルに立ち上がり交差し、ひとつの空間を構成する、フォトグラフィック・インスタレーションとも言えるでしょう。

日本初のアラン・チャンによるアートワークの展覧会となる本展では、桜の季節に京都で撮影された新作の映像作品《暖簾(Noren)》を含む、約50点の写真と映像作品をご紹介します。香港を代表するデザイナー アラン・チャンの新境地を、是非ご高覧下さい。

画像：いずれもアクリルマウントの写真作品 (左) 5点1組 / 3:28pm 2 Jul 2012 Beijing China, 924x1716mm / 5:41pm 2 Jun 2012 Beijing China, 841x1068mm / 3:13pm 30Jun 2012 Beijing China, 1116x1416mm / 4:05pm 1 Jun 2012 Beijing China, 1202x1212mm / 4:59pm 1 Jun 2012 Beijing China, 1002x1620mm / (右) 日本で撮影したイメージを使った新作のシリーズ Noren より

【展覧会概要】

展覧会名：アラン・チャン：iEye-ai (Alan Chan / iEye-ai)

会 期：2013年10月26日(土)～11月22日(金) *日・月・祝 休廊

会 場：アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間：11:00～19:00 (土曜日 11:00～17:00)

◆オープニングイベント：10月26日(土)

15時～ 対談：室賀清徳(雑誌『アイデア』編集長)×アラン・チャン *要予約、お申込はEメールまたはお電話で /16～17時 レセプション

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント)

協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

協力：Gallery 27/Alan Chan Design Company(www.alanchandesign.com/)、OOO Projects(www.outofoffice.jp/)

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [福田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449

E-mail:info@artcourtgallery.com URL:www.artcourtgallery.com



アラン・チャン (陳幼堅 Alan Chan)

1950年香港生まれ。

独学でデザインを習得*。その後40年に渡り、グラフィックに限らず、プロダクトやインテリアデザイン、ブランド戦略、コーポレート・アイデンティティまで、幅広い分野でアートディレクターとして国際的に活躍。国内外で多様なクリエイティブ・プロジェクトに参加を求められ、デザインコンペの審査やレクチャーも数多く務めている。'Oriental Passion Western Harmony (東洋の情熱、西洋の調和/東情西韻)'を哲学に、モダンとクラシックを織り交ぜ、伝統的な香港・中華圏の文化を新しい観点で提示するアラン・チャンのデザインは、国際的に認知され高い評価を得ている。

* 1970年代にデザインに関する10ヶ月の夜間コースを受講した。

受賞歴

コミュニケーション・アート、ニューヨークADC (Art Directors Club)、D&AD、東京TDC (Typo Directors Club)、香港デザイナーズ協会、HK4As クリエイティブ・アワードなど、これまでに600以上の賞を国内外で受賞。1996年にニューヨークのグラフィック誌 (Graphis Press) より「世界のデザイン会社ベスト10」の1つに選ばれる。2002年に香港特別行政区政府より、デザイン産業への寄与を讃えるメダル・オブ・オーナーを授与される。近年の受賞では、今年、アメリカの International Design Awards (IDA) に参加し、Alan Chan Design Company がブランドコンサルティングとデザインを担当した Robuchon au Dôme (フレンチ・レストラン) と、CHINA ROUGE (会員制クラブ) が、インテリア・デザイン・コンセプト部門でそれぞれ銀賞、銅メダルを受賞した*。

* Robuchon au Dôme のインテリアは Gwenael Nicolas 氏 (株式会社キュリオシティ、東京) との協働、CHINA ROUGE のインテリアは小坂竜氏 (A.N.D、東京) との協働による。

日本との関わり

アラン・チャンの日本との関わりは、1980年代に遡る。1987年に最初のプロジェクトが、日本人デザイナーの田中一光の薦めで実現する。西武百貨店と香港貿易発展局との共催で行われた香港フェスティバルの最初のヴィジュアル・アイデンティティの制作である。これを機にアラン・チャンのデザインは日本で認知されるようになる。その後、1991年と2002年に日本での個展が開催される。

デザインからアートへ

2000年以降、ファイン・アートの分野へ活躍の舞台を広げる。二度の上海ビエンナーレへの出展 (2002年、2006年)、香港人デザイナーとして初の個展を上海美術館にて開催 (2007年) し、香港文化博物館での個展 (2003年) は広く称賛を得た。その他、参加した主な展覧会として、Art Basel (スイス、2002年)、Red Mansion Foundation (ロンドン、2002年)、香港現代美術ビエンナーレ受賞展 (香港、2010年) など。作品は、上海美術館、香港美術館、香港文化博物館に収蔵されている。アラン・チャンは工芸品や美術作品の熱心な収集家でもあり、香港でギャラリー (Gallery 27) も運営している。

個展

- 1991 'East Meets West' Creation Gallery G8 (リクルート)、東京
- 2002 'Oriental Passion Western Harmony' ギンザ・グラフィック・ギャラリー、東京
- 2003 'The Art of Living' 香港文化博物館
- 2007 'My China : My Life' 上海美術館
- 2010 'iEye-ai - iPhone Photography by Alan Chan' Gallery 27、香港/上海
- 2012 'iEye-ai - iPhone Photography by Alan Chan' Antepima ショールーム、ミラノ
- 'iEye-ai - iPhone Photography by Alan Chan' New Age Gallery、北京

主なグループ展

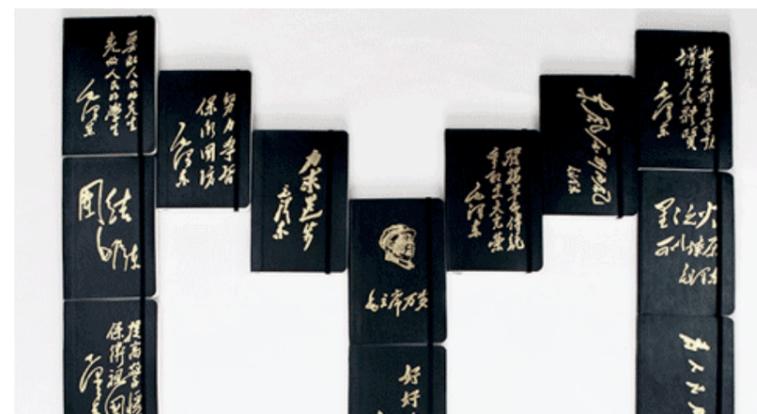
- 2000 'Contemporary Hong Kong Art 2000' 香港美術館
- 2001 'Art Windows - Art in Public Spaces' 香港
- 2002 'Art Basel 2002' バーゼル、スイス
- 'Dream 02 Exhibition' Oxo Gallery、The Bargehouse (The Red Mansion)、ロンドン
- 'Shanghai Biennale 2002' 上海美術館
- 2004 'The 3rd International Poster Biennial' 寧波、中国
- 2006 'Fun of Collecting' 香港文化博物館
- 'Shanghai Biennale 2006' 上海美術館
- 2008 'Art HK 08 Hong Kong International Art Fair' HK Convention and Exhibition Centre、香港
- 2009 'Rebirth@800Show' 800 Show Creative Center、上海
- 2010 'Hong Kong Contemporary Art Biennial Awards Exhibition' 香港美術館
- 'Moleskine Detour' 上海
- 2011 'What's Next 30x30' The OCT Art & Design Gallery、深圳/ Artistree、香港
- 'See the Light' Espace Louis Vuitton、香港
- 2012 'To See: To Be Seen' Hong Kong Arts Centre、香港
- 2013 'Hong Kong Contemporary of Art Biennial Awards Exhibition' 香港美術館



1

2

3



4



5



6



7



8

1. 会員制クラブ China Rouge (マカオ/ 2013) 2. フレンチの巨匠 ジョエル・ロブションの新しいレストラン (マカオ/ 2013) いずれもブランド・コンサルティングとデザイン提供。3. 'Hong Kong My Love' サルヴァトーレ・フェラガモのスカーフのデザイン (2007) 4. 手帳ブランド・モレスキン社へデザイン提供。5. 'The Magic of Chinese Calligraphy' セイコー社の時計。秒針が1~12の漢数字の一部になる仕掛け。(日本/ 2000) 6. 'Tea Matter' Alessi社と共同開発した音の出る茶濾し器 (2010) 7. 三井住友銀行ロゴデザイン (2001) 8. ティー・ルーム '茶語' (Cha Yu) (新宿高島屋、東京)